



## より良い世界のための青写真

### 暗唱 聖句

「あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みを  
をいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛  
さなければならない。わたしは主である」

(レビ記 19: 18、口語訳)

「復讐<sup>ひくしゅう</sup>してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。  
自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」

(レビ記 19: 18、新共同訳)

### 今週の 聖句

出エジプト記 3: 7、マタイ 22: 37～40、

出エジプト記 22: 20～22 (口語訳 22: 21～23)、

申命記 14: 22～29、26: 1～11、レビ記 25: 8～23

### 安息日 午後 7/6

### 今週のテーマ

憐れみにより、神はいつの時代にも、特別な関係を保つ人々を持つ  
ておられました。私たちは、(とりわけ) エノク、ノア、アブラハム、イ  
サク、ヤコブたちの物語の中に、破綻した人類との関係を再構築したいと強く願っ  
ておられる神の姿を見ます。しかしこれは、単にこれらのわずかな個人や彼らの  
家族のためだけのものではありませんでした。彼らが神とつながり、神によって祝  
福される時、それは、そのような関係を修復し、祝福をほかの人たちに分け与え  
るというもっと大きな計画の一部だったのです。神はアブラハムに、「わたしはあな  
たを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるよ  
うに。……地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る」(創 12: 2、3) と  
言われました。アブラハムは、彼が祝福されたように、他者にとって祝福の源とな  
りえたのです。

この祝福はイスラエルの民を通して、そして究極的には、この民の中から登場  
するメシアを通してもたらされるものでした。イスラエルの人々を創造することで、  
神は今や民全体と一緒に働いておられました。それゆえ神は、律法、規則、祭り、  
宗教的慣習など、生き方になるものを与え始められたのです。神によって祝福さ  
れた者たちが、ほかの人たちをも祝福できるようになるためでした。

間違いなく、この原則は今も生きています。

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」(出3:7)。

400年というのは、とりわけ、苛酷な奴隷という状況下で待つには長い時間です。神は、御自分の民のもとへいつか戻り、彼らをエジプトから連れ出す、と約束しておられましたが、彼らは何世代にもわたって、偶像を拜む抑圧者たちの富と名声を築くために取り残され、その間ずっと神は沈黙されているかのようでした。

やがて、神は独特な方法で御自分をあらわされました。人里離れた荒野の燃える柴の中、神は思いもよらない指導者に、つまり逃亡中の王子、モーセという名の謙遜な羊飼いにあらわれました。神は不承不承のモーセに、なすべき仕事をお与えになりました。その仕事は、メッセージを持ってエジプトにいるイスラエルの人々のところへ戻ることでした。そのメッセージは、彼らが虐げられていることを神が耳にし、御覧になったというものです。確かに、神は気にかけておられたのです。それどころか神は、彼らの状況を変えるために何かをしようとされていました。

**問1** 出エジプト記3:16、17を読んでください。神がイスラエルの人々のための御計画を、このような具体的メッセージで始められたことは、なぜ重要ですか。神からのこの言葉に関して、どういうところがあなたの注意を引きますか。

しかし、話はそこで終わりません。神は、より良い土地への計画を持っておられただけでなく、人々が手ぶらでエジプトから出ることを意図しておられなかったのです。400年間、彼らはエジプト帝国の繁栄に貢献してきました。神は、ファラオが最初は抵抗することを予見されましたが、イスラエルが長年にわたる重労働の代償を受けるだろう、とモーセに確約なされたのです——「そのとき、わたしは、この民にエジプト人の好意を得させるようにしよう。出国に際して、あなたたちは何も持たずに出ることはない」(出3:21)。

長年にわたる抑圧ののち、神は元奴隷たちが新しい種類の社会を設立するために、この機会をお用いになりました。神は、彼らが異なる生き方をし、持続可能かつ存続可能な社会を築くことを願われました。神の御計画は、この新しい種類の社会が周辺諸国の模範となり、アブラハムのように、彼らが神から受けた祝福によって、全世界を祝福することでした。

◆ 神は、この世の人々の苦しみを御覧になり、助けを求める彼らの叫びをお聞きになります。私たちの神がそのような神であられることは、あなたにとっていかに重要ですか。このことは、神について何を教えてくださいか(出4:31参照)。

**問2** マタイ 22：37～40 と出エジプト記 20：1～17 を読んでください。十戒を読むとき、イエスの十戒の要約は、いかにあなたの理解の助けとなりますか。

十戒は憲法のような形式を取っています。これらの声明が発表される根拠（ここでは、神が御自分の民を解放されたという事実）を明確に述べた短い前文のあと、この文書は、神の民が拠って立つ中心的原則を列挙しています。そこにあるのは、人間が神と同胞に対する愛をどうしたら最高に実現できるかということに関する具体的な命令です。キリスト教の伝統を持つ多くの国が、彼らの律法の根拠をこれらの指針から得てきたことは、少しも不思議ではありません。

これらの声明の多くは短いものですが、私たちは命の律法として、十戒の影響力の広さや包容性を過小評価すべきではありません。例えば、第六条——「殺してはならない」（出 20：13）——は、「命を縮めるすべての不正行為」（『希望への光』156 ページ、『人類のあけぼの』上巻 360 ページ）だけでなく、「利己的精神をいだいて、貧者や苦しむ者を顧みないこと」（同）をも要約し、含んでいます。同様に、第八条——「盗んではならない」（出 20：15）——は、「奴隷売買をしたりすることを有罪とし、征服のための戦争を禁じている。……それは……正当な借金や賃金の支払いを要求している」（『希望への光』157 ページ、『人類のあけぼの』上巻 360 ページ）だけでなく、「他人の無知、弱点、不幸につけこんで私腹をこやす行為」（同）をも禁じています。

私たちは自分自身について、自分は悪い人間ではない、と簡単に言うことができます。例えば、もし私たちが殺人や明らかな盗みに直接関与していなければ、私たちはきちんとやっているかのように思うかもしれません。しかしイエスは、十戒について語られたとき、この戒めが単にいくつかの具体的な行為をしないことによって履行されるのではないことを明らかにされました。むしろ、私たちの思い、動機、何かをしないことすら、神の律法を犯すことになりうるのです（マタ 5：21～30 参照）。

では、十戒の一つひとつが真剣に受け止められ、しっかり実現されている社会を想像してみてください。それは、だれもが互いを愛し、気遣うことによって、神への愛を熱心に実行する社会、活動的で生き生きとした社会でしょう。

◆ なぜ私たちは十戒を「狭い意味で」読み、これらの重要な原則を私たちの生活に幅広く適用させることをしばしば怠る傾向があるのですか。「狭い意味で」読むことは、なぜ原則を実行するうえでより簡単なのでしょうか。

**問3** 出エジプト記 23：9 を読んでください。イスラエルに対する神のメッセージは、何ですか。

解放されたばかりの奴隷であったイスラエルの人々は、虐げられること、搾取されること、軽んじられることがどういうことかを知っていました。自由になったことを彼らが祝う一方で、自分たちがどこから来たのか、除外されるとはどういうことか、また彼らを救うために神が何をなさったのかを忘れてしまうことを、神は心配しておられました。そこで神は、記念行事として、また〔出エジプトの〕物語——「主は、力強い御手をもって我々を奴隷の家、エジプトから導き出された」（出 13：14）こと——を繰り返し語る機会として、過越祭を創設されました。

**問4** 出エジプト記 22：20～22（口語訳 22：21～23）を読んでください。彼らの新しい社会の最も恵まれない人たちをどう扱うかに関するこの命令において、彼ら自身が奴隷であったという記憶はいかに重要ですか。

十戒が授与されたあと、反響音が消え去るとすぐに、モーセはもっと多くの時間を神と過ごすように召されます。そして神は、これらの重要な命令をイスラエルの社会でどう実現するべきかについて、細かい指示を彼にお与えになりました。幕屋の建設に関する指示の前にもかかわらず、神は奴隷の適切な扱い方というようなことに関する律法を3章にわたってお与えになります。その律法は、多くのイスラエル人が体験した扱われ方とは著しく対照的で、際立って見えたことでしょう。そこには、凶悪犯罪に対処する律法、財産に関する律法、日常生活のための律法、これらの律法を実施し、裁くための法廷を設ける際の原則などが含まれていました（出 21 章～23 章参照）。

これらの律法の中で目立っていたのは、この新しい社会における同胞への気遣いだけでなく、部外者や最も弱い人たちへの気遣いでした。このような人たちは搾取されるべきでないばかりか、彼らの尊厳を敬う（例えば、収穫後の畑から落ち穂を拾い集めるといった）方法で食べ物を入手する権利さえ与えられました。「部外者」や外国人へのこのような扱いは、古代世界では珍しいことでした。今日でさえ、ここに見いだされる他者の扱いに関する重要な道徳的原則を忘れているように思える人がいます。

◆ 他者の苦しみや不公平に関して、あなたを一層同情的にさせ、気遣わせるような（あなたの体験に基づく）記憶が、何かありますか。

多くのクリスチャンは、什一を払う（お返しする）ことに関する聖書の命令を認め、それに従っています。什一は、通常マラキ 3:10 が参照される単純な方式で、信者は福音を宣べ伝える教会の働きを支援するために、自分の収入（または「収穫物」）の 10 パーセントをささげます。什一を託された教会は、これらの資金の使い方に関して厳格なガイドラインを設け、おもに直接的な奉仕や伝道を支援するためにそれを用います。

**問 5** 申命記 14:22～29 を読んでください。これらの命令において、什一の主要な目的は何ですか。

その 10 パーセントをささげるとき、どうしても私たちはすべてささげ終えたかのように思ってしまう。しかし、イスラエルに与えられた命令は、10 パーセントという数字が出発点であったことを示唆しています。諸研究によれば、レビ記の律法の指針に従って生活し、ささげていた古代イスラエル人は、年収の三分の一から四分の一程度を神の働きのために、つまり祭司や聖所を支え、貧しい人たちを助けるために定期的にささげていたようです。

ある学者たちは、このような——とりわけ、寄留者、孤児、寡婦を支えるための——献げ物を「第二の什一」と呼んでいます。人々が自分の働きの結果を楽しみ、収穫物を祝うことは良いことです。神は、とりわけ新しい土地において彼らを祝福すると約束なさいました。しかし彼らは、その祝福を当然のものともみなしたり、祝福されなかった人たちを忘れてたりするべきではありませんでした。

通常年には、収穫のこの分量が聖所に運ばれ、そこから分配されました。しかし 3 年ごとに、受けた祝福を地域社会で分かち合うことに特別に重点が置かれました。この収穫の祝いでは、見過ごされがちな人、忘れ去られがちな人たちに特に目が向けられたのです。「(あなたは、) レビ人、寄留者、孤児、寡婦に施し、彼らが町の中でそれを食べて満ち足りたとき……」(申 26:12)。

神の御命令によれば、イスラエルの人々がささげた物の少なくともいくらかは、最も困窮している人々への経済的、実際の支援を提供することに向けられねばなりません。改めて言いますが、これは、神が彼らに対して憐れみ深く、公正であられたことの記憶と、そのことへの感謝に基づいていました。

◆ 申命記 26:1～11 を読んでください。主は彼らに何とっておられますか。私たちはこれを、困窮している人たちに施しをする態度にどう適用できますか。

神は、自分の家を持たず、約束の地に到着するのを待っていたイスラエルの民と会われる際に、彼らがカナンで新しい社会を築くとき、土地が重要になるであろうことをご存じでした。ヨシュアの主導のもと、部族や家族集団によって土地が秩序正しく分配されるのを神は監督なさいました。

しかし神は、時間の経過とともに、土地の所有と結びついていた富、機会、資源が少数の人間の手に集中しがちになることもご存じでした。家族問題、不健康、間違った選択、不運などが原因で、土地の所有者の中には、目先の利益や単純に生き延びるために自分の土地を売る人もいますが、これは、あとに続く世代のための財産が奪われてしまうことを意味します。

神の解決方法は、土地が完全に売られることはない、と法で定めることでした。その代わりに、土地が売られるのは次の「ヨベルの年」までであり、その年になると、土地は割り当てられたもの家族に戻るのであります。また、売られたいかなる土地も、売った人や売った人の家族のだれかによっていつでも買い戻すことができました。ここでもまた、神は人々に、神と彼らとの関係や、その関係が他者との関係にどう影響するのかを思い出させておられます——「地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである」(レビ 25:23、口語訳)。

**問6** レビ記 25:8～23 を読んでください。もしこれらの原則（とりわけ、「相手に損害を与えてはならない」という言葉）が実践されるなら、社会はどのように変わるとあなたは想像しますか。

「神がお定めになった規定は、社会の平等を助長するためのものであった。安息の年とヨベルの年の規定は、その期間内に、国家の社会と政治組織にできたひずみを、大いに改善するものであった」(『希望への光』278 ページ、『人類のあけぼの』下巻 173 ページ)。

聖書の歴史家たちは、この経済的、社会的周期が相当期間にわたって十分に続いたかどうかに関して、確信がありません(代下 36:21 参照)。たとえそうだとしても、このような規則は、もし神の律法が完全に守られるなら、この世がどのように機能するかを、興味深くも垣間見せてくれます。さらに、これらの規則は、神が貧しい人や社会的に取り残されている人々を特に気遣っておられるだけでなく、この世において公正さが実際的な形であらわされることを気にかけておられることを明確に示しています。

参考資料として、『人類のあけぼの』第27章「十戒」と第51章「貧しい者への神の配慮」を読んでください。

「神のご要求に応じることに続いて、貧者に対する物惜しみしない、慈愛のこもったもてなしの精神ほど、モーセの律法の中で著しく表されているものはほかにない。神は神の民を大いに恵むとお約束になったとはいえ、貧困が全く彼らの間からなくなることは、神のみ旨ではなかった。神は、地上から貧者がいなくなることはないと言われた。神の民の間には、常に、彼らの同情、親切、愛を働かせる人々があるものである。今日と同様に、その時でも、不幸な人や病気の人、また財産を失った人がいた。しかし、彼らが神から受けた教えに従っているかぎり、彼らの間にこじきをする者も、食に困る者もないはずであった」（『希望への光』276ページ、『人類のあけぼの』下巻168ページ）。

「こうした規定は、貧者と同様に富者を祝福するために考案された。それは、強欲と自己高揚の性質を抑制し、気高い慈善心を養い、そして、すべての階級間の友好と信頼をはぐくみ、社会秩序を助長して、国家を強固にするものであった。われわれはみな、大人類という織物の中に織り込まれていて、他を益し、向上させるための努力は、なんであれ、われわれの祝福となって返ってくる」（同上278ページ、同上下巻173ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① イスラエルの人々が築くべき社会のために、神がモーセと彼らに与えられた青写真のどのような特徴、どの律法や規定が、最もあなたの注意を引きますか（今週の研究の中で具体的に述べられていることでも、あなたがほかのところで読んだことでも構いません）。
- ② 神が御自分の民に与えられた律法の中で、なぜ神は最も弱い人たちに目を向けておられるように見えるのでしょうか。

### まとめ

神は、エジプトで苦しんでいたイスラエルの民の叫びをお聞きになり、彼らを救うために介入されました。神は、特別な契約関係を彼らと結び、（しばしば忘れ去られている人、社会的に取り残されている人、弱い人をも含む）すべての人にとって祝福となる新しい社会を築くために彼らと協力しようとしました。